

我が家は共働きで、3歳と1歳6カ月の娘がいます。朝は私の子どもたちを保育園まで送って行き、夜はお風呂と一緒に入った後、寝かしつけたり、休みの日は一緒に食事を作るなど、夫婦で協力しながら家事や育児をしています。

当社では、平成28年4月から県内全店舗で半日休制度がスタートしました。私も子どもが熱を出して保育園から電話が来た時に、半日休暇を取って病院に連れて行ったことがあります。他の男性社員も半日休暇を利用して参観日に出席するなど、好評です。この制度は、社員の意識向上にも役買っているようで、平成28年11月には、初めて男性社員が育児を取得しました。休みを取る時は店長に言いませんが、日頃から社内のコミュニケーションを取り、お互い助け合える雰囲気を作ることも大切に



だと思えます。学生時代から野球をやっていて、今も高校時代の仲間と野球球を楽しんでいます。プライベートが充実していると仕事のモチベーションもアップするし、子どもの病気などで休みを取った後は、その分がんばらうという気持ちも湧いてきます。また、小さいお子さんを連れのお客様には、自分の体験を通じて車選びのアドバイスができるので、子どもと過ごす時間は仕事にも役立っています。



株式会社青森タイハツモーターズ 青森石店  
榎引 悠士 さん

### 県内の就活・就職を応援します!

県では、県内大学生や本県出身の県外大学生等に対し、県内の就活・就職を応援するとともに、若年者の職場定着のためのサポートをしています。例えば、青森県企業情報誌の作成・配布、合同企業説明会の開催、学内就職セミナーなどへの職員派遣、県内就職した場合の生活をイメージできる生涯収支モデルなど、青森県の暮らしやすさに関する情報をお知らせし、県内就職を支援しています。

また、若年者の職場定着の促進に向け、高校生の就労意識形成支援を行うほか、県内企業や若手社員を対象にした企業人材育成研修、個別カウンセリング・意識調査などバックアップに努めています。

労働政策・能力開発課 ☎017-734-9398



その後、関東の大学に進学。卒業後は青森で就職しようと考えていましたが、そんな思いを後輩に伝えてきました。

現在、青森県で勤務している。現在は総務部で広報業務を中心とした総務関係の仕事をしており、民間や歴史にも興味がある。沿線の暮らしやすさの「資源」として、意外に知られていない魅力を探り、通学で青い森鉄道を利用しての通勤生活とコラボして何か面白いことができたらいいなと考えています。

ヒトやモノだけでなく、文化も運ぶ鉄道。今後も仕事を通じて人や地域と関わりながら、新たな発想とアイデアで青森の魅力発信していきたいと思っています。

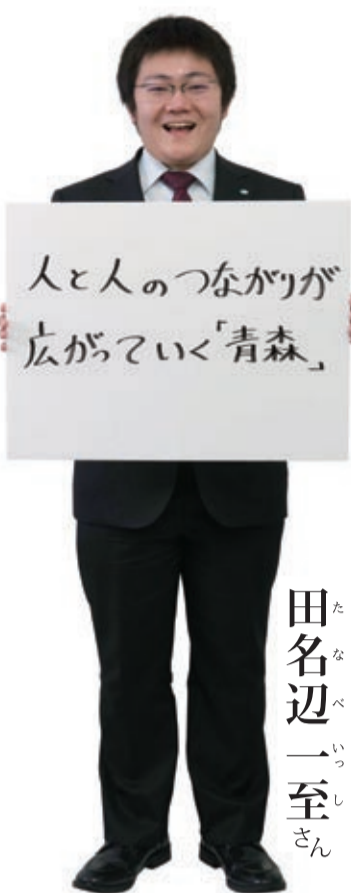
高校時代から、地域活性化団体「クリエイト」(現・NPO法人あおもり若者プロジェクトクリエイト)のメンバーとして、ミニFM局での自主制作番組の放送、観光客向けフリーペーパーの制作など、青森の魅力発信する活動を行っていました。

その後、関東の大学に進学。卒業後は青森で就職しようと考えていましたが、そんな思いを後輩に伝えてきました。

現在、青森県で勤務している。現在は総務部で広報業務を中心とした総務関係の仕事をしており、民間や歴史にも興味がある。沿線の暮らしやすさの「資源」として、意外に知られていない魅力を探り、通学で青い森鉄道を利用しての通勤生活とコラボして何か面白いことができたらいいなと考えています。

ヒトやモノだけでなく、文化も運ぶ鉄道。今後も仕事を通じて人や地域と関わりながら、新たな発想とアイデアで青森の魅力発信していきたいと思っています。

### ヒト、モノ、文化を運ぶ鉄道沿線の魅力を発信したい!



青い森鉄道株式会社 総務部総務広報課  
田名辺 一至 さん

### ワーク・ライフ・バランスで「働き方改革」に挑戦!

「ワーク・ライフ・バランス」は、「お休み」のための制度だと誤解されがちですが、実は「働く」ための制度です。ですから、「もっと休める」ではなく、「もっといい仕事ができる」がキーワードになります。

企業の経営者の皆さんは、ワーク・ライフ・バランスの取組をきっかけに、不要な残業などをなくして、利益の上がる効率的な働き方をめざす「働き方改革」にチャレンジしてみたいかがでしょうか。

柔軟性のある働き方を採り入れることで、仕事をしながら育児・介護との両立も可能になるため、優秀な人材を失うことがありません。ワーク・ライフ・バランスは、会社にとって非常にメリットのある制度なのです。

また、ワーク・ライフ・バランスでは育児と介護がクローズアップされがちですが、地域との関わりも重要な要素です。特に仕事一辺倒で生きてきた男性は、定年後に地域で孤立してしまうというケースも少なくありません。充実した人生を送るためには、地域の交流も大事なことだと思います。

ワーク・ライフ・バランスは、会社はもちろんですが、働く一人ひとりが考えて実践していくことが大切です。仕事と生活の「調和」をめざして、ぜひ取り組んでほしいと思います。

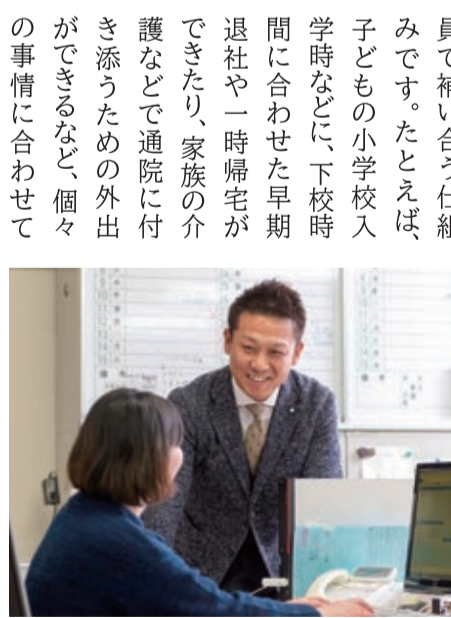


【インタビュー】  
弘前大学 教育推進機構  
キャリアセンター副センター長  
准教授 小磯 重隆 さん

### 職場に「イクボス」を増やそう!

近年、育児や介護など、さまざまな事情で残業できない従業員が増えています。そこで県では、働きやすい青森の実現のため、職場で共に働く部下・スタッフのワーク・ライフ・バランスを考え、その人のキャリアと人生を応援しながら、組織の業績も結果も出しつつ、自らも仕事と私生活を楽しむことができる上司(経営者・管理職)＝「イクボス」を増やすため、企業などへの働きかけを積極的に行っています。

青少年・男女共同参画課 ☎017-734-9228



子どもの小学校入学時などに、下校時間に合わせて早期退社や一時帰宅ができた、家族の介護などで通院に付き添うための外出ができるなど、個々の事情に合わせて

## こんな工夫で「働きやすさ」がアップ!

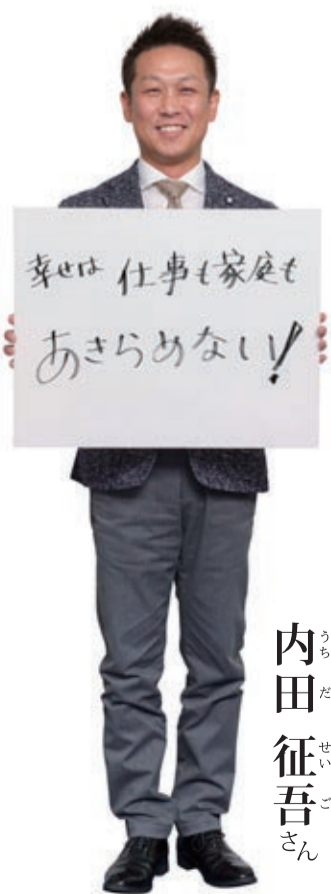
生活を支えるうえで欠かすことのできない「仕事」と、家庭・子育て・地域活動などの「暮らし」。両者のバランスを取りながら充実した人生を送っている方々をご紹介します。

### 女性が働き続けるための「思いやり配慮ルール」

当社は女性社員が7割を占めており、彼女たちのスキルとキャリアを生かした活躍に大いに期待しています。そんな社員たちが育児や介護などをしながらも長く働き続けられるよう、社員の意見を取り入れながら作ったのが「みんなの思いやり配慮ルール」です。これは、出産、子育て、親の介護など、ライフステージに合わせてさまざまな働き方ができるように変則勤務を採り入れ、社員全員で補い合う仕組みです。たとえば、子どもの小学校入学時などに、下校時間に合わせて早期退社や一時帰宅ができた、家族の介護などで通院に付き添うための外出ができるなど、個々の事情に合わせて

流動的な働き方を認め合おうというものです。それによって、育休後の社員は、100パーセント職場復帰。仕事の無駄を省き効率化を図るようになり、社内の風通しも良くコミュニケーションが密になりました。

学生の皆さんには、企業が自分たちに用意してくれる条件だけでなく、自分はその仕事を通して社会にどんな価値を提供し貢献できるかも考慮し、自分が一番輝ける企業を選んでほしいですね。ギブ&テイクで企業を選ぶとミスマッチが起こりやすいですが、「同じ思いを持った人と一緒に働く」のは、生きがいにつながります。



株式会社東京堂 代表取締役社長  
内田 征吾 さん

私は、五所川原市内の会社に勤務し、産休・育休取得後、職場復帰しました。夫婦共働きのため、生後7カ月の次女は保育園に預けています。でも、病気の時は保育園に預けることができなないので、私が仕事を休まなくてはなりません。私の職場は子育てに理解を示してくれていますが、繁忙期に何日も休まなければならぬ時は、申し訳ない気持ちになります。

そんな時、市内初の「病後児保育拠点センター」みどりの風アイリスがオープンしたと知り、施設内には看護師や保育士が常駐していて、病後回復期の乳幼児から小学生を預かっ



てくれるとのこと。娘は人見知り真つ最中なので初めは大丈夫かなと不安でしたが、実際に預けてみると、スタッフの方たちが

### 働くママ・パパをサポート! もしも「の時の「病児保育」



会社員  
米塚 奈央 さん

### 共働きのママ・パパをバックアップ!

県では、育児をしながら働くママ・パパの負担を少しでも軽減するため、仕事と子育てを両立しやすい環境づくりののひとつとして、満足度の高い保育サービスの充実に取り組んでおり、青森県の毎年度4月の待機児童はゼロという結果も出ています。

中でも、共働き世帯から特にニーズの高い「病児保育」(病気やその回復期の子どもを一時的に預かるサービスの)拡大に力を入れています。例えば、病児保育に預けた我が子の様子を仕事場にいるママ・パパが遠隔で確認することができるライブカメラや専用スペースを事業所に設置するなど、お子様の安全を守り、ママ・パパが安心して働けるためのさまざまなサポートに取り組んでいます。

#### 病児・病後児保育事業実施状況

年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度(注)
実施件数(例)	12	15	16	16	20	25

#### 病児・病後児保育事業利用児童数

年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度(注)
児童数(人)	4,535	5,398	6,544	6,260	7,173	

注: 28年度は10月までの実績です。

図 子どもみらい課 ☎017-734-9302

### 2月の「地元あおもりで、一緒に働こう!」関連番組 放送予定

放送局	番組名	放送日時
青森テレビ	みんなの県庁!	2月4日(土) 16:55~17:00